

## とくべつしせき 13. 特別史跡

いちじょうだにあさくらしいせき

### 一乗谷朝倉氏遺跡(146次)

所在地：福井市城戸ノ内町字出雲谷・斉兵衛

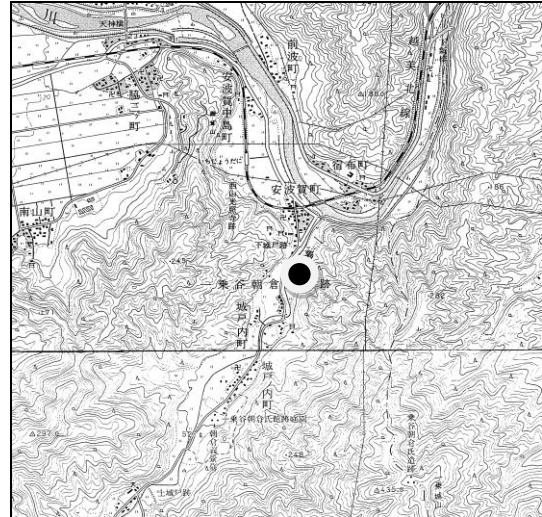
調査原因：一乗谷川河川改修事業

調査期間：平成26年6月10日～12月19日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：1,250㎡

時代：室町



位置図 (S=1/50,000)

**調査の概要** 昨年度の試掘調査（第142次調査）によって、河川改修予定範囲の一部で旧一乗谷川右岸の護岸跡とみられる石積み遺構などを確認しました。県土木事務所との協議を行った結果、本格調査が必要と判断した部分について、平成26年度に発掘調査を実施することになりました。

**遺構** 調査の結果、戦国時代の一乗谷川に伴う石積みの護岸遺構を右岸側と左岸側で確認しました。右岸側では、長さ約67m、高さ約1.4m、左岸側では、長さ約27m、高さ約0.9mの石積みをそれぞれ確認しました。

右岸側の石積みと左岸側の石積みとの間の幅は約10mを測り、右岸側の石積みの裏側には、裏込めと見られる拳大の円礫が多量に詰められているのを確認しました。

**遺物** 河川からは、室町時代の国産陶磁器、中国製陶磁器、土師質皿に加え、笏谷石製の板類・墓石・井戸枠などが多く出土しました。

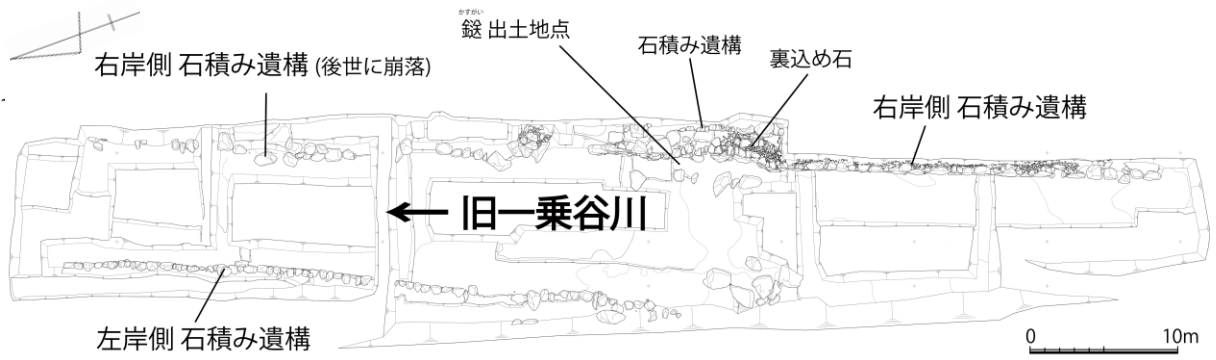
また、小柄等の金属製品や金箔や朱が付着した五輪塔も出土しました（前年度の試掘調査では河床から鋤が出土しています）。

**まとめ** 当遺跡では、これまでに上城戸の土墨跡の川側や朝倉館跡の川側の発掘調査地から、河川の護岸と考えられる巨石積みを確認していました。

今回の調査によって、遺跡北側の下城戸においてもこのような河川の護岸遺構があることを確認し、遺跡全体にわたって河川の護岸が施されていた可能性が高くなりました。

また、戦国時代の一乗谷では、計画的に城下町が整備・管理されていたことが、南北幹線道路などの道路、区画された屋敷や町屋などの発掘によって明らかになっており、城下町を縦貫する河川においても、計画的な維持・管理がなされていたことがうかがえます。

(松本泰典)



第1図 調査区平面図



写真1 調査区全景 (西から)



写真2 右岸側 石積み遺構 (南西から)



写真3 左岸側 石積み遺構 (北東から)